



かけはし

青の1組

～秋のダイナミックワールド号～

「秋のダイナミックワールド」において、青の1組で展開されている遊び、その遊びが始まったなどご紹介させていただきます。各クラスの「かけはし」は、本園 Web サイト「園からのお便り」のページにも掲載する予定です。よろしければ、ぜひ、他クラスの遊びの様子もご覧ください。

空気砲やドミノ倒し、風の力で動くものなどで遊んでいた子どもたち。たのしい音楽会に向けて、「くるみ割り人形」の歌を歌いすすめていくと、「くるみ割り人形の世界って楽しそう!」と、ご家庭で用意して下さった絵本を持ち寄り、絵本の中のシーンを再現しようと、相談をはじめました。今までしていた遊びに、物語のイメージや登場人物を加えていった子どもたち。くるみ割り人形やお菓子の国、キャンディー畑が、段ボールや画用紙、折り紙など身近な素材をつかってダイナミックに再現されています。

巨大くるみ割り人形のくるみ入れゲーム

高く積み上げた段ボールを玉入れのようにして遊びはじめたことがきっかけで生まれた遊び。



段ボールを高く積み上げ新聞紙を丸めた玉を投げ入れ玉入れのようにして遊び始めた子どもたち。すると、「この段ボールをくるみ割り人形にして口にボールを入れて遊ぼうよ」という意見が。口をパクパクさせる仕組みをつくらうと試行錯誤しはじめました。また、上が重くて下が軽すぎると倒れやすいことにも気づき、くるみ割り人形の下に重りとなる水を入れ工夫していました。

なんとか口が動く仕組みも仕上がり、くるみ割り人形に“くるみ”に見立てたボールを入れるゲームができました。

ドミノ倒しゲーム～どっちがさきにたおれるか?～

積み木でドミノ倒しをしていたことがきっかけで生まれた遊び。



最初、積み木でドミノ倒しをして遊んでいた子どもたち。「積み木じゃないもので(ドミノを)やりたい」ということで、トイレットペーパーの芯を使うことになりました。

「くるみ割り人形」の物語にでてくるねずみにしようと、折り紙や画用紙をつかってトイレットペーパーの芯でねずみをつくりました。しかし、トイレットペーパーの芯を並べてもドミノのように次々と倒れないことに気づき、並べ方を変えてみましたが倒れず…。次に、形に問題があるのではないかと、トイレットペーパーの芯を潰してみました。すると、見事、ドミノ倒しができるようになりました。このドミノ倒しは、おもちゃの兵隊とねずみたちとの戦いのシーンを再現しています。

金平糖の空気砲でねずみの王様と戦おう!

空気砲でのあてをしていたことがきっかけで生まれた遊び。



「くるみ割り人形」のある絵本に『空気砲で金平糖を飛ばすと、ねずみが砂糖まみれになってしまう』というシーンがあり、そこが印象に残った子が、そのシーンを再現しようと空気砲をつくりだしました。

金平糖になりそうなものを探しカップを2つ合わせたものを、空気砲でとばすことに。

ねずみや、ねずみの王様を紙コップでつくって置き、何度か空気砲をたたいて、ねずみの王様を狙うというゲームになりました。

お菓子の国へ行こう!～ねずみの王様との競争～

折り紙でつくった車をうちわで仰いで坂道をのぼらせようとしていたことがきっかけとなった遊び。



折り紙でつくった車をうちわで仰いで段ボールの坂道をのぼらせようと遊んでいた子がいました。坂道の一番高い部分の箱で段ボール箱の口が開いていたことから「お菓子の国の入口みたい」という声。そこからお菓子の国づくりがはじまりました。

はじめは、風の力で車をのぼらせようがんばっていましたが、やがて、段ボールの坂道ではなく、紐を坂のようにななめに張り、そこをつたって物を動かす仕組みを考えだしました。またお菓子の国の入り口に入る...ということから、動かすものはマリーや王子に見立てることになり、作成中です。

キャンディー畑でレース!!!

風の力で動くものを発見したことがきっかけで生まれた遊び。



お菓子の箱でサッカー場をつくり、ペットボトルのキャップをボールにしてふいて遊んでいた子どもたち。もっと大きくしようと段ボールを切り開いたところ、サッカー場ではなく、レース場になることになりました。「競争できそうだね」とペットボトルのキャップを2つ合わせたものをうちわで仰ぎレースをはじめた子どもたち。

近くでお菓子の国をつくっていた子どもたちが、キャンディーをたくさんもってきて、「キャンディー畑ができそう!」とレーンの隙間にストローにつけたキャンディーをさしてくれました。

